

## 第1学年英語科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水) 6校時  
場 所 山田町立山田中学校 1年3組教室  
学 級 1年3組(男子15名、女子15名、計30名)  
指導者 教諭 大瀧 航 (T1)  
講師 横田 早也華 (T2)

1 単元名 PROGRAM 8 Origami (開隆堂 SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は折り紙についての話題を題材としている。登場人物が折り紙との関わりを紹介する場面を通して、折り紙が日本文化の一つであることを再認識するとともに、世界からも関心が向けられていることに気付かせたい。

言語材料は、助動詞 can を扱う。これまで学習した一般動詞に加え、「できること」「できないこと」を表現することは、2学期後半に予定している他人紹介での表現を豊かにするものとする。そこで、MY PROJECT を視野に入れ、本時でも他人を紹介する活動を取り入れたい。

生徒は小学校外国語活動でも can を用いた表現に慣れ親しんできている。そこで、本単元では小学校での教材を再度用いることで、can の意味や用法について想起させ、中学校の学びにつなげたい。文構造については、自作の教材やアクションカードを使いながら口頭で繰り返し練習することで、自分や級友、有名人のできることについて英語で紹介することや、たずねることができるように指導したい。また、疑問詞 how を用いた文の意味なども理解し、使い方を例示しながら口頭練習し、英語でのやりとりにつなげたい。

(2) 生徒観

英語を主体的に使う生徒を育てることを目標に、今まで学習活動を継続してきた。生徒は音読練習や自己表現活動に一生懸命に取り組むことができる。また、ペアやグループ活動においても意欲的に取り組むことができる。

しかし、諸テストの結果では、文章を聞き取り正確に単語を書くことや、自己英作文に課題が見られる。その原因の一つとして、語彙力の不足がある。そこで授業の初めに語彙を得るための活動を位置づけ、豊かな言語活動に結び付けたい。

(3) 研究主題との関わり

英語で自分の考えを相手に伝える場面を多く設定し、自己存在感を与える機会としたい。また、相手意識をもたせる言語活動を授業に取り入れることで、共感的な人間関係を育成する手立てとしたい。言語活動において相手の意向についての英語を読むことや聞くことを通じて理解することなどで、級友の意見を認める場面を設定している。さらに、自己決定の場としてマイプロジェクトなどの言語活動の場面で自分の意志が反映できるよう、日々の授業では振り返りシートを用いて、自分の言葉で学びを振り返る時間を確保したい。

また、授業の導入で二学期の表現活動のゴールを提示し、その活動にどのように活かすことができるか、本時の学びを活用することができる場面を「見通す」ことを行っている。さらに、授業の終末では、本日の学びが二学期のゴール活動にどのように活かすことができるか自分の言葉で記述することにより、学習の「振り返り」を行っている。

### 3 単元の目標

- (1) 登場人物のできることやできないことについて読み取ることができるようにする。
- (2) グループワークにおいて、間違ふことを恐れず話すことができるようにする。
- (3) 助動詞 can を用いた文の構造を理解することができるようにする。
- (4) 疑問詞 how を用いた文の構造を理解することができるようにする。

### 4 単元の指導計画・評価計画 (本時3/6)

時	学習内容	目標	評価の観点				評価規準
			関	表	理	知	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</li> <li>・助動詞 can (肯定文) の文の構造を理解する。</li> </ul>	友だち自慢をする。				○	・助動詞 can を用いた文の構造を理解している。
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大介ができることを読み取る。</li> <li>・教科書本文を通して、can を用いた文の使い方を理解する。</li> </ul>	ダイスケができることを読み取り、大介になりきり音読をする。				○	・ダイスケのできることについて読み取ることができる。
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞 can(疑問文) の文の構造を理解する。</li> </ul>	日本代表の自慢をする。			○		・can を用いて、友達にインタビューし、紹介をすることができる。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大介が折り紙で作れるものを読み取る。</li> <li>・教科書本文を通して、can を用いた文の使い方を理解する。</li> </ul>	ダイスケが折り紙で作れるものを読み取る。				○	・ダイスケのできることやできないことについて読み取ることができる。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問詞 how の文の構造を理解する。</li> </ul>	有名人の名前のスペルを確認する。	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークにおいて間違いを恐れずに質問をすることができる。</li> <li>・疑問詞 how を用いた文の構造を理解している。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウッド先生の恩師について読み取る。</li> <li>・教科書本文を通して、How を用いた文の使い方を理解する。</li> </ul>	ウッド先生の折り紙の出会いを読み取る。				○	・ウッド先生の折り紙との出会いを読み取ることができる。
後日	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;ペーパーテスト&gt;</li> <li>・場面を与えて適当な表現を書く問題</li> <li>&lt;パフォーマンステスト&gt;</li> <li>・好きな人のできることについて話す</li> </ul>						

## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・できることをたずねたり答えたりしたことをもとに、他人を紹介できるようにする。

### (2) 本時の指導構想

本時の導入では、小学校で学習してきた can の使用場面について振り返り、中学校ではさらに他人について紹介するために学習することを確認することで、小学校での学習内容との違いを明らかにして、学習の「見通し」をもたせたい。

本時の展開では、グループメンバーやペアのできることを聞き、理解することで級友の考えを認める場面を設定し、共感的な人間関係を育んでいきたい。グループ内で発表する場面を一人ひとりに与えることにより、英語を通じて人前で話し聴いてもらえることが、自己存在感につながるように支援を行いたい。

本時の終末では、can の使用場面を再確認することで、二学期の表現活動のゴールである MY PROJECT 2 にどのように活かすことができるのか考えることを学習の「振り返り」として、自分の言葉で記述できるようにしたい。これが自己決定の場となるために、個人で考える時間を保障したい。

### (3) 評価規準

- ・can を用いて、友達にインタビューし、紹介をすることができる (表)。

(4) 展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	教師の評価 (○)・支援・留意点
導入 10分	1 隣の人のできることを予想する。	・隣の人のできること・できないことについて、Hi, friends 2 を使って復習をする【共感】。	・小学校で学んだことを振り返りながら、進める。
	2 学習課題の設定	・小学校との違いと今学期の目標のつながりを確認し、振り返りシートに記入をする【結果】。	・新出文法の使用場面をイメージさせる。
オリンピック日本代表選手をインタビューし、アピールしよう。			
展開 30分	3 パターンプラクティス	・アピールに使う Word を使って練習をする。	・練習量を十分に確保する。
	4 インタビューをして、メモをつくり紹介の準備をする。	・オリンピック日本代表選手のプロフィールカードを持ったグループメンバーをインタビューし、メモにまとめることで、紹介するための準備をする【共感】。	・教師がデモンストレーションを行う。 ○オリンピック日本代表選手のアピールをインタビューすることができる(表)。 ・グループ活動が円滑に進むように支援をする。
	5 グループ内で紹介をする。	・発表リハーサルを取り入れる。 ・ <b>Name</b> is ~ player. He/She can ~.と紹介し、オリンピック日本代表選手を外国人に紹介する【存在】。	○オリンピック日本代表選手のことについて紹介することができる(表)。
終末 10分	6 まとめ	・”can”の使用場面と使い方を確認する。	
	7 振り返り	・単元シートで、今学期の目標達成のために新出文法をどのように使用するか記述し、発表する【決定】〔過程〕。	・優れた発表内容に対して拍手を促し、級友の考えを認める場面を設定する【共感】。
<p>【「振り返り」文例】</p> <p>「can を使うと、有名人をアピールすることができる。Can you~? を用いることで相手のできることについて聞くことができる。」</p>			

【決定】：自己決定の場を与える手立て    【存在】：自己存在感を与える手立て    【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て